

事故予防

子どもの事故は大人の気配りで大部分は防げます！！
家庭の中をもう一度見直してみましょう！

1. 子どもを1人で家や車に残さないようにしましょう。

子どもは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。



2. 自動車に乗るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

たとえゆっくり走っていても衝撃は予想以上に大きく、大人の手力では支えきれません。



3. 入浴後、浴槽のお湯は抜いておきましょう。

溺水の多くは浴槽で起きています。子どもが簡単に浴室に入れないようドアにカギをつけたり、子どもだけで浴室では遊ばせないようにしましょう。

4. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがります。薬や化粧品は誤飲事故につながります。



5. タバコや灰皿は子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもはタバコ1本の半分程度のニコチンが体内に吸収されると、命を落としてしまう危険があります。



6. ピーナッツやアメ玉などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもの喉は未発達なので気管に物が入りやすく、窒息事故につながります。

ピーナッツや豆類を与えるのは危険ですので控えましょう。



7. ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが手を触れないようにしましょう。

子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。



8. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱いものに触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ポットや熱い食べ物、飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

9. ベビー用品やおもちゃを購入する時は、デザインよりも安全性を重視しましょう。

説明書をよく読み、構造や品質に問題がないか確認して使用しましょう。



10. 階段に転落防止用の柵などを取り付けましょう。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるよう子どもの下側を歩きます。

また、大人の目が離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけましょう。



事故が起こってしまった時あわてないためにも、かかりつけの病院や緊急時の連絡先を電話のそばに貼っておきましょう。